

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会医療法人凌雲会	代表者	稲次 正敬	法人・事業所 の特徴	藍住町に法人母体があり、徳島市内にはサービス付高齢者向け住宅2カ所（名東・万代）、小規模多機能型居宅介護2カ所（名東・万代）、ヘルパーステーション（津田）がある。
事業所名	小規模多機能ホーム 万代の家	管理者	山本 まさ代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	引き続き新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、電話や文章等の非接触での関わり方を考える。	電話連絡やはがき・手紙に加え、新たに施設の SNS を開設し、施設の様子をご家族様にも見えるような工夫をした。	新型コロナウイルス感染症の影響によって運営推進会議が未開催となりご意見をいただく場を設けることが出来なかったため、自己評価とご家族様からいただいた外部評価の結果をふまえて改善計画を立案した。	SNS での情報発信はご家族様にも見て頂けているので、益々充実できるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	利用者様と協力しながら環境製作を行い、あたたかい雰囲気施設の施設を目指す。	利用者様と共に環境づくりに取り組み、季節を感じるあたたかい施設の雰囲気づくりができた。		季節に応じて事業所の展示物を変更したり、利用者様と新しく作成して四季折々の環境づくりに取り組む。
C. 事業所と地域のかかわり	地域のコミュニティーセンターに出向き、コロナ禍における地域の状況を把握できるようにする。	コミュニティーセンターとの関わりを深くすることは今年度出来なかった。		地域のコミュニティーセンターに出向き、事業所全体で関わっていけるようにする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、地域の独居高齢者の訪問、適切なサービスの提案をする。	新型コロナウイルスの感染状況をみながら地域の独居高齢者の訪問を行った。		コミュニティーセンターからの情報や地域の民生委員の方々と連絡を取り合い、地域の方々に適切なサービスを進めていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、終息し次第運営推進会議を実施する。	運営推進会議の開催はできなかったが、郵送による報告は2か月に一度行った。		対面・オンラインでの運営推進会議を検討する。
F. 事業所の防災・災害対策	施設内での防災・災害対策を強化し、備蓄品の準備と定期的な防災訓練を行う。終息後施設外と連携が取れるようにする。	施設内での防災訓練は行ってきたが、地域と協同しての訓練はできなかった。		引き続き施設内の防災・災害対策を強化するとともに、施設外とも連携が取れるようにはたらきかける。